

令和6年度史跡箕輪城跡整備成果説明会

1 箕輪城跡の概要

- ・西暦1500年頃に長野氏が築城。以後4代にわたって長野氏の本拠。
- ・長野業政が武田信玄の侵攻を何度も防いだ城として名高い。永禄9年（1566）の落城後、武田氏→織田氏→北条氏→徳川氏と城主が変わる。
- ・これまでの発掘調査の結果、最後の井伊直政期を中心に門跡などがみつき、「大規模な堀」と「良好に残る虎口（出入り口）」が箕輪城の最大の特徴と位置づけられた。

2 石垣復元工事について

(1) 施工期間

令和3年度～5年度

- ・令和3年度・・・レプリカの型取り、製作（一部）
- ・令和4年度・・・レプリカ製作（3年度の残り）、排水溝等の整備
- ・令和5年度・・・石垣、暗渠等の整備

(2) 施工内容

材料 ・GRC

＝ガラス繊維補強セメントを使用した石塔のレプリカ ➡

※Glass fiber Reinforced Cement

- ・採石場で採取した自然石（安山岩）

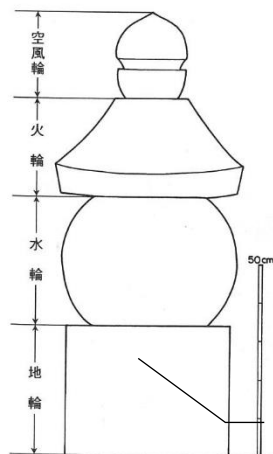
施工 発掘調査の図面や調査時の写真を確認しながら、GRCと自然石を積み上げる。自然石は築城時には城の西側を流れる榛名白川の川原石を使用していたようである。現在は採石できないため、同じ石材で似た形のものを採石して使用した。



レプリカ製作の様子

(3) 見学のポイント

石塔の転用 石塔や石仏を石垣に転用する事例は各地で見受けられるが、箕輪城のように虎口の石垣に大量に石塔を使用している事例は珍しく、復元したことによって城の特徴の一つが現地で体感できるようになった。これらの石塔には、梵字が刻まれたものもある。大部分の石塔は五輪塔の「地輪」が転用されたものと考えられる（左下図）。



この部分が転用

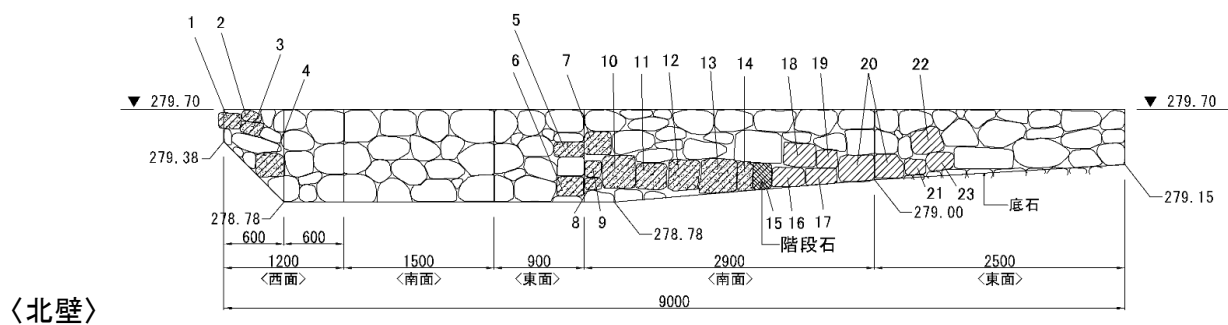


発掘調査時の写真（右側に梵字のある石塔がみえる）

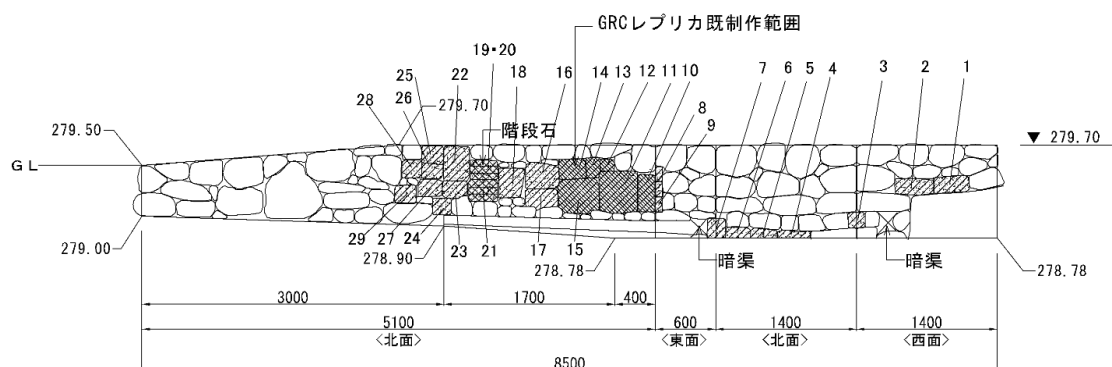


レプリカ（設置後）

五輪塔図（新編高崎市史中世編に加筆）



〈北壁〉



〈南壁〉

網掛け部=GRC レプリカ それ以外=自然石

石垣の展開図 (S=1/75)

石垣の積み方 石垣は加工程度によって野面積み、打込接、切込接に分けられる。箕輪城跡の本丸西虎口の石垣は、ほとんど加工しない自然石を積み上げる野面積みと呼ばれる手法である。また、江戸時代初期に、石垣の隅を直方体の石材の長辺と短辺を交互に組み合わせて積む方法＝算木積み^{さんぎ}が完成するが、箕輪城の時代にはこの積み方^{のづら}にはならない。さらに、1頁下の発掘調査時の写真からもわかるように、石垣は全ての石が残存していたわけではないため、調査で確認できた部分から築造当時の姿を推定した。このように発掘調査の成果や石垣技術の歴史を踏まえて復元整備を行っている。



本丸西虎口の復元石垣



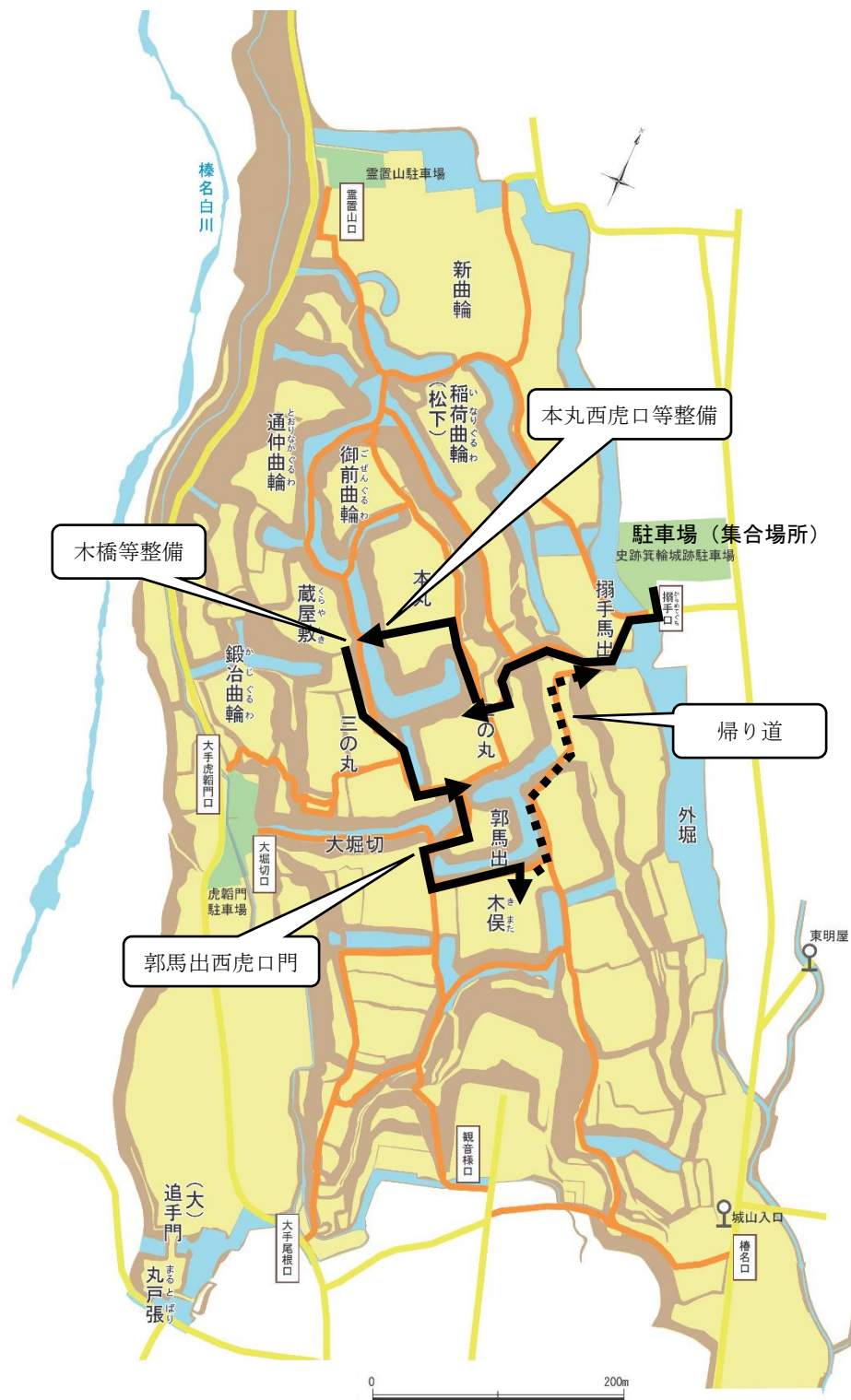
和歌山城の算木積み

本丸西虎口の石垣ができるまで



3 その他の整備

- ・平成23～25年度 本丸周辺等樹木伐採、二ノ丸・御前曲輪トイレ整備、斜面復旧等
- ・平成26～28年度 郭馬出西虎口門復元、園路整備等
- ・平成29～30年度 本丸土塁復元工事等
- ・平成30～令和3年度 本丸・蔵屋敷間木橋、蔵屋敷地区整備等



本日の見学ルート